

5分で読める

一からわかる再配置

公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。



H26.9.8

Vol.9

図書無人貸出サービスの実証実験

平成27年2月から2年間、本町公民館図書室で図書の無人貸出サービスの実証実験が始まります。

これまで、図書の貸出しなどは、人を介して行っていますが、「ICタグ」を利用して、図書の貸出し・返却を「自動貸出返却装置」を使って行うものです。

利用するには

利用者は、はじめに、公民館の受付で、図書館カードを提示して登録手続きをします（初回のみ）。図書室の本にもあらかじめICタグを貼っておき、利用者自身が「自動貸出返却装置」にICタグを読み込ませて、貸出し・返却の操作をします。

出入口には「セキュリティゲート」が設置してあり、貸出しの操作をしないで本を外に持ち出すことはできません。



ICセキュリティゲート



IC自動貸出返却装置

実証実験に係る経費

今回の実証実験に係る事業予算は、約2,500万円。そのうち、1,000万円は、財団法人図書館振興財団の「平成26年度振興助成事業」の助成金を活用し、残額は、共同で実験を行う（株）図書館流通センターが負担します。

実証実験により期待される効果

- ① 銀行のATMが一般化したように、2年間の実証実験を通して、図書室の図書の貸出返却を利用者自身で行うことが一般化すると思われます。また、利用者の評価を分析することで、何が必要なサービスなのかを検証することができます。
- ② ICゲートとセキュリティシステムによる無断持ち出し禁止機能、および入館時の利用者認証、監視カメラの設置など、安全性、セキュリティの効果を検証します。先行事例の大阪府高槻市の駅前無人図書館は、安全性で問題ないことを実証しています。
- ③ 無人化により、運営コストをどれだけ圧縮できるかを検証します。

将来のあるべき図書館の姿とは…

「秦野市公共施設白書」の作成に当たって行った市民アンケートの結果では、図書館は、将来に渡り維持すべき公共施設の見事第1位！

一方で、図書館の管理運営に係る一般財源負担額は、第2位となっており、管理運営費の削減にも目を向ける必要があります。

市立図書館は、さまざまな図書や資料を備えるとともに、それらを広く紹介、また、司書をはじめとした職員が利用者の相談に応じるなど、多くの役割を担っており、「無人化」にすることはできません。

その中で、市立図書館とは異なる、貸出しに特化した無人の図書室は、気軽に利用でき、かつ、経費の削減にもつながります。

米国や北欧、台湾、韓国、中国などではすでに一般的であるという無人図書館。身近なところで、気軽に本が借りられる……。将来、そんな小さな図書館が至るところに設置されているかもしれません。



本町公民館図書室

